

ときわ新発田

第194号

令和4年7月5日
発行 広報委員会
印刷 株式会社 福島印刷



【月岡温泉 あしゆ湯足美(ゆたび)】
撮影 豊浦小学校 阿部 英幸(平3年度)



支部長 巻頭言

取り戻そうときわの絆 求めよう学びの場 ～ウイルス禍後を見据えて～

支部長(ときわ会本部研修委員長) 井上 正 裕

ときわ会は、会員一人一人の高い志と、それに基づく行動で築かれています。会員一人一人の志の高さと行動の質の高さがあるからこそ、相互に錬磨し、高め合う研修団体としての強さと魅力があります。

つまるところ、ときわ会の財産は、「人」です。一人一人の会員の志と行動が宝物で、有り難いものです。そして、人と人のかかわりである研修と親睦が、さらに個々のときわ人を磨き、高めます。

ところが、この会員相互のかかわりが、新型コロナウイルス禍により制約を受け、ここ2年余り妨げられてきました。かかわりが薄ければ、相互の錬磨も薄くなります。必然的に、研修団体としての強さや魅力も薄れてしまうことになります。

ときわ会大橋伸夫会長は、代議員会のあいさつの中で、来年度150周年を迎えるときわ会で、我々会員が受け継ぐべきは、高い志と不断に努力を重ねる姿勢であり、ときわ会が目指す姿を求め、一人一人が真剣に考え、自ら行動に移していくことが今求められていることだと述べています。そして、目指す姿は、

ときわ会に価値を見出し、自ら考え行動し、よりよい自己を作り上げるために、主体的に参加し楽しんでいる会員一人一人の姿としています。

このような会員の主体性を尊重し、成長を願う会員を支え続けられるときわ会でありたいものです。令和4年度の基本方針「新しい時代の教育に向け、自らを高め続ける会員一人一人を支えるときわ会」の具現に努めることが重要と考えています。

わたしたち新発田支部においても、新型コロナウイルスの感染拡大状況を踏まえてではありませんが、対策を講じ、工夫を重ねながら、研修や交流の場を可能な限り確保するよう努めます。会員の皆様には、これらの研修や交流の場に、自らを高めるために主体的に参加し楽しんでもらいたいと思います。

また、自ら学びの場を求め、創り出すという主体性を会員の皆様から発揮していただきたいのです。そうすることで、磨き合い高め合う濃密なときわの絆を取り戻せます。そのような魅力的な新発田支部、ときわ会を、全会員で目指してまいりましょう。